

令和元年度 第1回 二宮町子ども・子育て会議 会議録

日 時 令和元年 10 月 4 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分
場 所 二宮町町民センター3B クラブ室
出席者 飯塚委員（会長）、水島委員、相馬委員、小口委員、里見委員、加藤委員、
林委員、吉野委員
（欠席／中西委員（副会長）、石井委員、山中委員）
事務局 松本健康福祉部長、神保子育て・健康課長、田邊子育て・健康課課長代理、
田嶋子育て・健康課子育て支援班長
傍聴者 0 名

1. 開会

事務局：令和元年度第 1 回二宮町子ども・子育て会議を開催します。この会議では、二宮町子ども・子育て支援事業計画の策定やその計画に盛り込まれている施策の進捗状況の確認・評価をしていただいています。本日は令和 2 年度に改定する二宮町子ども・子育て支援事業計画の基本理念の部分についてのご意見も皆様よりお願い致します。

2. あいさつ

松本健康福祉部長よりあいさつ及びこの会議の主旨について説明

事務局より配付資料の確認

次第、名簿、資料 1・資料 2：子ども・子育て会議の運営およびスケジュールについて、資料 3：量の見込みと確保方策について、資料 4：第 2 期二宮町子ども・子育て支援事業計画について、冊子：二宮町子ども・子育てに関するアンケート調査結果について、幼児教育・保育無償化についての資料を配布しています。

会議の公開・傍聴について報告

二宮町附属機関等が開催する会議の公開に関する要綱により本日の会議は公開とします。
（異議なし、傍聴希望なし）

3. 自己紹介

名簿順に各委員の自己紹介

事務局自己紹介

4. 会長・副会長の選出

二宮町子ども・子育て会議条例第5条の委員の互選により会長及び副会長の選出

事務局：飯塚委員に会長、中西委員に副委員長をお願いすることでよろしいでしょうか。

(異議なし)

飯塚会長には席の移動をお願いし、一言ごあいさつをお願いします。

会 長：先ほど松本部長からいろいろな視点で二宮らしい計画をとお言葉をいただいたので、初めてで大変恐縮だが、皆様のご意見、お力添えをいただきながら、次の5年間の計画を一緒に作らせていただけたらありがたいです。できるだけ皆様にご協力いただき、ご意見を言いやすい雰囲気になったらと思っているので、よろしくをお願いします。

5. 議題

(1) 子ども・子育て会議の運営及びスケジュールについて

資料1「二宮町子ども・子育て会議条例」及び資料2「子ども・子育て支援新制度スケジュール」をもとに事務局より説明

会 長：ただ今の説明に対し皆様からご意見、ご質問等がありますか。

資料1、子ども・子育て会議条例については従前と同じくご理解いただけるのではないかと思います。再度確認ということでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

資料2、子ども・子育て支援新制度作業スケジュールに関してはいかがでしょうか。実質たぶん2回目、3回目で頑張っ構成をまとめていくということで、なかなかのスピード感が必要だと改めて思いました。月に1回顔を合わせて、5ヶ月で頑張っやっていくという感じです。事務局も大変だと思いますが、この2月のところで、パブコメが終わった後に県との法定協議があり最終を迎えるというイメージでもよろしいでしょうか。パブコメと県に確認をしてもらった最終段階をこのメンバーでまとめ上げて完成というイメージでお願いします。

(2) 二宮町子ども・子育てに関するアンケート調査結果について

事務局より、冊子「二宮町子ども・子育てに関する調査報告書」をもとに、平成30年度に実施したアンケート調査結果から今回の計画策定にあたって重要となる項目について説明

会 長：こちらの結果報告に関してご質問、ご意見などはありますか。

私から質問させていただきますが、就学前に800、小学生に200の郵送調査をし

ているとのことですが、そもそもの母数、家庭数は全体で何件位ありますか。

事務局：当初抽出した時の数字を今は持っていないが、1 学年の児童数がだいたい就学前で 130 から 140 位。世帯数だと兄弟がいるのでもっと少なくなります、確か 1,000 程度で、アンケートから漏れてしまう人がいなかったという記憶があります。

会 長：正確な数字ではないが、二宮町の中で就学前のお子さんがある世帯が大体 1,000 位ということでしょうか。

事務局：確か 1,000 ちょっと位だったと思います。調査をかける時はそういう元の数字があって抽出率何%と考えて実施していますが、今日資料が無くすみませんでした。

会 長：皆様からご質問等はありませんか。

事務局：ちなみに、前回の計画の時のアンケートでは就学前の世帯にしかアンケートをとっていない状況でした。回収率は 57.2%ということなので、同じ就学前で考えると今回の方が回収率が少し上がっている状況です。

委 員：私もこのアンケートを出させていただきました。すごく項目がたくさんあって、母親の仕事だとか父親の仕事だとかいろいろな項目があったが、今その中から何点か説明をしていただいた。その説明をしていただいた点が二宮町として何か次の事業に繋げていきたいポイントだったのかなと思いました。たくさん項目の中からなぜ今のポイントをとりあげて説明することになったのか教えてください。

事務局：まず、保護者の就労状況のお話をさせていただきましたが、これは二宮町でやっている保育園の利用率等に関わってくる部分なので、保護者の就労状況というのがまずメインにあがってくるのではないかと考えています。それから放課後の過ごし方なども説明をさせていただきましたが、今やっている事業のメイン事業となる部分のご説明をピックアップしています。今後もメインとなっていくだろうと思われるところを説明させていただきます。

事務局：この後出てくる資料 3 の需給計画に深く関わるところで、この子ども・子育て支援事業計画の数値で今後の人数の見込みを立てなければならない。そこに深く関係するのでピックアップさせていただきました。それ以外に、子ども・子育て支援事業計画の中には、町の本当にいろいろな取り組みとして保育園の人数だけでなく、例えば子どもの健診の話なども出てくるので、そういったところは皆さんからご意見をいただいて、回数が限られているが、これから進めていけるのではないかと考えています。

会 長：求められている部分の掘り起こしのための調査がベースになっているということなので、さらに子育てしていらっしゃる委員の方たちは声を大に、どういったものを求めているかということがあがってくると良いと思います。それ以外の方たちからも、こういうものをやったらどうなのか、これが必要ではないか、こんなことが二宮町だからという関わる方たちのご意見がまとまった計画になると良いと思います。

では、これらの調査報告書をベースに、事務局の案にプラスアルファしていただければ良いと思います。

それ以外にご意見はありませんか。

(特になし)

(3) 量の見込みと確保方策について

資料3「幼児期の教育・保育の需給計画」をもとに事務局より説明

会 長：では、今の説明に対してご質問、ご意見はありませんか。

委 員：内容ではないが、前にも指摘した言葉の使い方が、福祉関係と学校関係で区別されていない。学校関係では必ず幼児、学童、生徒というのをそれによって区別しているのが混乱してしまう。こういう使い方でも文章の意味はわかるのだが、外に出した場合に、指摘される可能性があると思います。

例えば資料3の一番上、①で0歳、1・2歳、3～5歳を就学前児童数としているが、児童とってしまくと教育の現場では小学生を指すので、どうしても児を使いたいのであれば就学前児で終わりにした方が良いと思います。あるいは本当は幼児なので幼児とってしまった方が良い。同じ資料3の2枚目では幼児期の教育と書かれている。あるところは就学前児童といい、またあるところでは幼児というのでは行政マンとして恥ずかしいので、どちらかに統一した方が良いと思います。とにかく就学前児童というのはよくないと思います。

委 員：何か一定の決まりごとがあって使い分けられているのではありませんか。

会 長：町独自か、それとも県から下りてきているものなのなのでしょうか。

事務局：この表に関しては、神奈川県から来ていたのでそのままの表記にさせていただきましたが、計画に載せていくときにはこの表をそのまま載せるわけではないので、その辺に注意して掲載させていただこうと思います。

事務局：行政の方でもやはり言葉についてはいろいろと言われていて、教育の分野だと幼児、小学生は児童、中学生は生徒というようないい方をしています。一方で、児童福祉の分野では18歳までを児童という使い方をしたりして、その辺がやはり全国的にも言葉が混在しているというか、そこは確かにおっしゃられる通りだと思っています。

委 員：福祉の方では児童相談所というので、児童の言葉で全て括られている。だからそれで通っているという思いもあるが、ちゃんと区別をしているのだから、やはり区別するなら統一した区別をしないとおかしいと思いました。

事務局：計画の具体的な中では、町でつくる部分については、そこをきちんと理解できるような形で考えていきたいと思っています。

会 長：では、二宮町の計画の中では文言を整理して、統一した形で誰が見ても理解でき

る注釈などがあると良いですね。福祉分野の人でも教育分野の人でも。こういった計画の中では言葉遣いをしっかり統一していただきたいです。

委員：保育所の方からなのだが、今、保育所不足という言葉がよくいわれています。人口減少の関係で5年後にはピークアウトといわれていて、園児数がだんだん減っていくといわれています。その様な中で二宮町としての人口減少を食い止めるような、子育てをしやすい環境をつくっていただきたいと思うのですが、そちらの方の具体的な計画みたいなものは特になのでしょうか。テレビなどでは、お母さんたちが子育てをしやすい環境とあって、例えば町が住宅をリノベーションしたり、人が流入してきやすいような環境を作ったり、何かそういうことを期待してしまいます。そういうものがもしあればというか、どんどん進めていただきたいという思いはあるのですがいかがでしょうか。

事務局：人口減少というのは日本全国の流れであって、人口増に転じることは非常に難しいであろうと考えます。例えば、二宮町が人口増にするということは他の市町村との取り合いみたいなことになってしまって、現実的には非常に難しい。二宮町では、現状から統計的に算出する将来の推計人口というのを求めたところ、今手元に資料がないが、40年後位には14,000人台だったか、今は28,000なのだがそこまで下がってしまうというような推計が出ています。それでは二宮町が成り立たない、地域も成り立たなくなってしまうので、全国的に、総合戦略というものを各市町村で立てなさいといわれた中で、二宮町の総合戦略を平成28年に立てました。将来、今の人口からだんだん下がっていくわけですが、これをいかに緩やかに収められないかというような計画を立てました。伸びることはとても難しいので、その計画の中ではいろいろな取り組みをしていて、皆さんお聞きになったことがあるかどうかはわかりませんが、一色小学校区をモデル地区にしていろいろな地域コミュニティをつくっていく、一色小学校区地域再生協議会というものを立ち上げたとか、特に百合が丘の高齢化率が非常に高くなっている現状の中で、あそこは住宅供給公社の団地などがありますから、公社なども巻き込んで、公社の住宅をリノベーションして新しい人達を呼んでくるとか、その様な取り組みが始まっています。まだそれが始まって今年が四年目位で町の北部ではその様な活動をしています。いずれこれは同じ二宮の町内でも、富士見が丘の地区や他の地区にも高齢化はどうしても来てしまうので、そのときに地域がいかに成り立っていくか、そういったところを考えています。その他には、やはり子育て世代がいかに二宮に来てもらうか、もしくは二宮に住んでいる方に子育てしやすい環境をいかに提供していくかということもその戦略の中には組み込まれています。ただ、子育てに関する具体策となると、今回つくるこの計画が一番具体的なものになってくるので、そういった中で子育ての具体策というものは反映していきたいと思っています。そういうふうに行っている中で今、二宮町では人口は減少している。

ただし、人口には出生と死亡に対する自然増・自然減というものと、転入・転出に関わる社会増・社会減というのがあり、今までは両方ともマイナスだったのが、2年位前から転入が転出を上回り、そういった効果が出始めてきています。自然減、死亡に対して出生が上回るかというとなかなか難しく、とても追いつかず全体としては減っているが、他の地域から二宮に引っ越してきてくださっている人が少しずつプラスになっています。

会 長：今、丁寧なご説明を事務局からいただきましたが、町としてはそういうスタンスで今取り組んでいると。自然減の部分では、今は出生より死亡の方が多いので、人口全体的には減少してはいるけれども、逆に産みやすい町とやったら、これももしかしたらどこかでする可能性があると思えるそういう取り組みをしているところはないでしょうか。

例えば、川崎市などは、ここ10年は人口が増え続けていくという算出が既に出ていて、この間もちょっと仕事で行って見たら駅の周辺のタワーマンションがすごい数で、そこにどんどん子育て世代が今転入してきているという話も聞きました。他方で、この近辺を見ていると、お子さんの数がトータルで減っているから、県立高校などは、今、統廃合を進めているそうです。そういう世代が入ってきて増える、そして、減ってきて、また一巡していくというのが、今のご説明だと町内でも、百合が丘に始まり、次に富士見が丘、その次が松根の方とかで、順番にという見通しが立てられているのであれば、今、委員がおっしゃったように、その先の見えているところに対して何か施策を打って出られないのかと思います。ただ、事務局の方たち、業者の方たちはどうしても予算の関係もありなかなか出したいと思っても出し切れない部分、そういうご苦労もあると思うので、一般の、民間の私たちの方からどんどんそういうアイデアの提案ができるの良いのかもしれないですね。

委 員：今、子育て中の委員にお聞きしたい。無償化によって、保育料が安くなって、今度はどこへ行ってもほとんど同じ料金で良いわけで、それを何か感じるか。二宮の方が良いなど。

委 員：うちは2人幼稚園に入れているので、10月から無償化になって毎月48,000円無償化されることになり大きいので助かります。子育ての考え方というのがすごく多様化しているなと思います。無償化によって預かり保育も無償化になるので、働ける時間が長くとれるようにもなります。保育所に入れて働くことができると考えるお母さんもいらっしゃるし、二宮のアンケートを見ていると、教育として幼稚園教育を受けさせたいという数字も出ていて、やはりそれぞれの考え方があるなと感じています。私は幼稚園に入れているのでそこに行かせながら、無償化によって預かり保育も多少軽減できるので、今年の5月からパートに出て少し働きに出ることにしました。それぞれの家庭での考え方があるのかなと思っています。

二宮町に関しては、私は大阪からこちらに越してきましたが、場所としても、都心にも出やすく、子育て世帯が転入するにはすごくいい町だと思っています。働く母や父が都心に出るのも東海道線で行きやすいし、そこに子育てしやすい町というのがあれば、きっと子育て世帯は二宮に入ってくると思います。比較的家賃も他のところから見ると安く、住宅事情もいいので、その点で何かもっと子育てしやすい町というのを売りにすることによって、二宮町に子育て世帯の増加を見込めるのではないかと肌で感じています。施策がこれだというのは難しいですが、例えば空き家リノベーションで、外から入ってくる子育て世帯に安い家賃で貸し付けるとか。やはり家賃というのは子育て世帯にとって大きいと思うので、その辺の住宅事情を、ちょっと補助が出るとかそういうことがあれば、きっともっと入ってくるのではないのでしょうか。

委員：今聞いて、若い人の考え方が二極化しつつあるのを感じました。子育てを大事に、自然の中に子どもをたっぷり触れさせてゆったり育てたいと思う人、便利さを追いかける人はタワーマンションの様なコンクリートの中で子育てをして外遊びなどには車も多く走っているので行けないがそれでもそこに住みたいという人もいて二極化しているなという感じを随分と受けました。そういう意味で、誰でも彼でも二宮にいらっしゃいといっても無理なので、本当に自然で子どもを育てたいという人たちはいらっしゃいとSNSなどでボンボン出してみればよいのではないのでしょうか。

委員：その需要はあると思います。自然は近いし、都心にも出やすい町であり、自然の中で子育てしたいという思いを持っている人もたくさんいると思います。住宅事情も多少は安いというのもあって、きっと子育てをしやすい町にすることによって子育て世帯は入ってくるのではないかなと思います。

委員：そこで町の施策が見えてきたのではないのでしょうか。住宅が少しでも他より安く住めるような施策を打って出ると。

委員：本当に、最近引っ越してくる子育て世代は多いと思います。私はずっと二宮に住んでいるので魅力をよく知っているつもりですが、出産については二宮には産院がないので、どうしても小田原か平塚に行かなければなりません。そうなるとギリギリまでここにいるのはちょっと怖いと思うところはあります。湯河原の方だと救急車が専用で来てくれるというのを聞きました。だから、二宮も妊婦さんを送迎して連れていってくれるようなシステムがあったら、安心してギリギリまで二宮にいられるかなと思いました。

委員：それはすごく思いました。子育て世帯が入ってくるということは、やはり近くに祖父母がいない世帯が入ってくるということなので、行政で妊娠中のサポートがあると安心できます。産院をつくるのは無理でも産院まで運べるシステムがあるとか、専用のタクシーがすぐ来てくれるとか、そういうのがあればカバーはでき

るのではないかなと思います。

委員：今のような妊婦さんを相手にする施策があれば、安心して産める。産婦人科を持って来いなんて言わなくてもいいわけだ。

委員：いい意見だ。こういう生の施策を、政策を打たないとだめなのだ。

会長：貴重な意見でした。

委員：僕の娘が通っていた幼稚園ではお父さんの集まりというのがありました。他の園さんでも何かそういうお父さんのグループ、組織というのがありますか。

委員：お父さんグループは、内輪ではあるようだが公式にはないです。

委員：うちは父母の会と称しているが、主体はやはりお母さんです。出やすいのかしょっちゅう会議をやっています。

委員：行政がどういう状態か私もわからないのだが、男組という父親の会がある。父親同士のコミュニケーションとか、そういったものがすごく充実されていて、すごく楽しかった記憶があります。もし、ここに他の行政さんと差がつくようなところがあればそういったものも1つ武器になるのかなと思いました。二宮はお父さんも育児に参画しやすい町というようなものが、例えば施設側としてもそういう公式な団体、公式といたらおかしいが、そういったものをつくるのにお力添えをいただければお父さんも参加しやすいと思います。

委員：どんな活動をしていたのですか。

委員：年に1回、例えば夏に園内で流しそうめん大会やスポーツイベントをやるなど、そういったものを企画しました。

委員：男組というお父さんの会が主催してですか。

委員：全部お父さん方が計画して、準備・組み立てなどもしました。その打ち合わせと称した、それが楽しかった記憶があります。僕も小田原市出身で引っ越してきた側なので、最初地域のネットワークを作るのがすごく大変でした。そこで男組に入ったことによって出来たお父さん同士のネットワークが、今でも続いています。PTAをやるのもその繋がりもあって、そういったものも1つ成功事例として参考になれば。お母さんが子育てをしているというのが偏見かもしれませんが、そういうところがあれば、お父さんも参加しやすい町だということに繋がればと思いました。

委員：今は呼びかけなくても子どもの教育に関しては2人で必ずお見えになる方も多い気がします。前は大体見学はお母さんと子どもだったが、最近のご夫婦や場合によってはおじいちゃん、おばあちゃんもいらっしゃいます。

委員：遠足なども、前はお母さんだけだったのがご両親で時間をつくって来られる方が増えてきている。

会長：授業参観も同様で、お母様だけではなくてお父様、あとおじいちゃん、おばあちゃんも見に来られている。

委員：行政の方で設備の部分と、現場の方で取り組まなければいけないところと、両面からいろいろ考えて進めて、子育ての充実という最終目的を達成するような動きができればと思います。

会長：いろいろ素敵な意見が活発に出てありがたいです。この流れでいろいろなご意見が出ると思います。これから先、人口減のところに関しては、施策でもしそういうものがあがってきたらベストかもしれませんが、お金もつくし、他の課との兼ね合いもあるかと思うので、それは取っておいて検討していただき、本題の議題（４）に移らせていただきます。

（４）第２期子ども・子育て支援事業計画について

資料４「第２期二宮町子ども・子育て支援事業計画について」をもとに事務局より説明

会長：今ご説明いただいたところでは、特に本日は、１点目としては、まず区域の明示をするにあたり分割した区域をつくるか、今まで通り二宮町全体を一区域として総合的に見るのか。町内全体１区で統制が取れたらというご提案だったと思います。そちらに関しては皆さんいかがでしょうか。変えた方が良いというようなご意見と根拠等あればいただけたらと思います。皆さん領いてくださっているようですが、新たなご意見等はいかがでしょうか。

事務局：狭い町なので分けることが逆に難しい。ちょっと補足すると、もっと大きな市では、１つの市で、例えば保育所をここに集中的に整備をしても遠くから通えないよということで、エリアを分けてこういう計画を立てる。二宮はこれだけコンパクトな町なので、却ってエリアを切ってしまうと余計難しくなる。保育園・幼稚園は町内どこからでも、どこの園にでも入っている状態だし、小学校区は３校に分かれているが、中学校区になると今度は２校になる。前回の時はその様な事情があって町内を１区域で、町内全体の中で進めていけばいいだろうという判断だったので、今回もいかがでしょうかというところです。

会長：学校だってどうなっていくかわからない時期でもある。では１区域として引き続きで、ご了承いただけますでしょうか。

（異議なし）

では事務局へ、今後も１区域でお願いいたします。

会長：それ以外に全体でご意見、ご質問はありますか。

委員：先ほど同様に、９ページの（９）小学校・中学校の児童・生徒数の推移というのは児童・生徒とちゃんと表記できているが、（８）保育所・幼稚園入所児童数の推移は児童となっている。ここを幼児とするか、幼児を使いたくなければ入所児だけ

にするようどちらかに統一した方が良いと思うのでそれだけ指摘しておきます。

会 長：今後策定していくにあたって統一していく形で整理をお願いします。

ご説明いただいた骨子の章に関しては、今現在のものと大体変わらない形だったと思うが、他にご質問、ご意見はいかがでしょうか。

第1章の骨子の部分、それから第3章の基本理念のところ、特に文言を含めて委員の皆さんの意見が一番反映できるどころかと思えます。前回から何か検討したいことはありませんか。

事務局：資料を配ったのも昨日というような状況でご覧いただいて、なかなか難しいとは思いますが、ご協議をお願いしたいという打診はさせていただいた部分です。

事務局：昨日見て今日いきなりということもあり、今日これを完全に固めなければいけないというものではないので、いろいろ率直な意見をいただいた上で、具体的な意見があればそれはいただきたいし感覚的な意見でも結構なので、いろいろなご意見をいただいて固めていければ良いかと思っています。よろしくお願いします。

事務局：文章の中身や組み立てはいろいろできるのだが、一番はキャッチフレーズ的な目標の文言がどうなのかというところ。こういったことが伝わるような言葉に変えていったらどうだろうとか、もしこういう言葉ならどうだとか、そのようなご意見でも何かいただけたらありがたいです。

会 長：それは12ページの基本理念のところでしょうか。

事務局：12ページの基本理念の一番上の「みんながつながり 自然とふれあいながら 子育てができるまち」というのが前回の計画のフレーズです。

会 長：前回というと5年前ですか。

事務局：5年前です。その時にはやはり自然というのが二宮の特徴だということで、それを生かしたいという声は確かあったように記憶しています。

会 長：5年前は自然をキーワードに基本理念を考えたそうですが、インパクトがあるとかキャッチーなとか、何かありますか。

基本理念なので、個人的には大きく変えてしまうと今までの何だったのかということになりかねないので、その辺は大まかにこの形が引き継がれて良いのではないかと、イメージを初めて見させていただいた時に私は感じたが、さらに今後5年間の取り組みに、あえてより印象深いものができるとう良い。印象に残りやすく、どの世代にもわかりやすく。特に若い方たちは今いろいろ短い言葉をよく使うので、覚えやすくなるとう良いのかもしれない。子育て世帯を増やしていこうということを出していけるといいのかなとも思うが、では何をといわれてしまうと困ってしまう。

委 員：この文章を読ませていただいた時に、すごくわかりやすくて本当にそうだそうだ、二宮はそうだなと思いました。本当に、自然があつて、広報にも「おかえりなさい、二宮」みたいなことが出ていたが、ここに帰ってきたらホッとするみたいな。

私はまだ二宮に来て短いが、帰省して帰ってきた時に、ああ帰ってきたなみたい
に、1年と少しで思うようになってきています。自然が多いというか、あたたかさ
みたいな、ほっとするみたいなものはすごくあるので、この理念自体はすごくい
いと思っています。確かにインパクトのある言葉があればいいなというのもあり
ます。中井町だったか、車で走っていたら「オンリーワン子育て」とか書かれて
いて、オンリーワンって何がオンリーワンなのだろうとやはり思うし、そういう
ので何かあれば食いつくきかけにはなるかなと思いました。今すぐには思いつ
かないが。インパクトもあればいいかなというのがありますが、この理念はすご
くいいなと、読んだときに感じました。

委 員：基本理念なので、やはりキャッチーにとかインパクトというよりは、逆にこれを
ずっと継続させ続けていく、定着させるというのも1つの方法なのではないかな
と思います。30年後もこの基本理念をずっと貫き通すというような。

会 長：積み重ねは大事だと思います。この太字の部分、これが何か、今おっしゃった
みたいどこかに残るとするのがいいのかもしれない。ベースはこの文言、文章は
この形にして、ここでまとめるのは難しいと思うので、例えば何か意見が出てき
た時に、事務局にまず皆さんからメールや電話、FAXでもいいので連絡をして
いただくことでいかがでしょうか。

事務局：方法は別に何でも構いません。電話でもメールでもFAXでも、たまたま役場に
来た時に寄っていただいても構いません。何かご意見があったらいただいて、い
ただいたもので次回に直した草案みたいなものをもし提示できればいいかと思っ
ています。もしくはこちらからいくつか案を示して見ていただくようなことがで
きたらいいとも思います。

会 長：では、皆様の方で次回以前に何かひらめいたものや、意見があった時にはそのよ
うにお願いいたします。

委 員：もし加えるなら、例えば自然といっても漠然としているので、どこでも使える言
葉でどこの町でも同じになってしまう。本当の二宮の良さというのは大磯丘陵と
いう小高い小山があって、その後ろに丹沢の山塊がある。この2重構えの景色と
いうのはそうそうないので、そういうどこでも使えるような言葉ではなくもう少し
具体的な何かプロのキャッチコピーの上手な人に二宮のこの自然を特徴的な言
葉で表現して欲しいと頼んでみてはどうか。これにはいっぱいお金を使っても良
い。こういうところにお金を使うべきだ。行政マンが考えたっていい言葉は浮か
ばない。

会 長：では何かご意見がありましたら、次回までに事務局に集約するという事で、第2
回目の時に整理されたものをご提示いただいて、最終的に検討するという事で
よろしいでしょうか。

(異議なし)

(5) その他

幼児教育・保育の無償化について、資料をもとに事務局より説明

会 長：これに関しては、決められた制度というところだと思うが、何かご意見、ご質問はありますか。

委 員：副食費というのはおかしい。米は別でとか、パンは別でとか。

事務局：この辺は、今、テレビ等でもいろいろな課題があるということで出ています。でも、おかげさまで二宮町内の幼稚園さん、保育園さんとは何度か打ち合わせをさせていただいて10月はスムーズに対応していただきました。

委 員：スムーズになんていっていない。スムーズな顔をしているだけだ。

事務局：保護者の皆様に迷惑がかからないようにはできたと思っていましたが、その辺は各園の皆様に感謝申し上げます。

会 長：進める側は本当に大変だと思う。ありがたいと思っています。それ以外で他にありますか。

事務局：事務局から2点ほどあります。まず、本日の会議の議事録については、作成させていただいた後、委員の皆様にも一度見ていただいて、その後ホームページの方に掲載させていただくというような流れを考えているので、またご協力の程よろしくをお願いします。

次回、2回目、3回目の会議については、日程調整を後ほどさせていただいてなるべく早く開催通知の方をさせていただけたらと考えています。

会 長：議事録の確認の方法はどういう形になりますか。

事務局：前日も委員をやっていただいていた方には、事務局からご連絡させていただくのに都合の良い方法をお返事いただいています。新しい委員さんにつきましてはこれから調整をさせていただけたらと思っています。

会 長：メール、FAX等で、締切りを決めていただき、それまでに何かあればお手数ですが事務局の方へ、皆さんよろしく願いいたします。

事務局：次回の日程調整については、今お渡ししてあるものを書いていただき、後で回収させていただきたいと思っています。

会 長：では、その他に対してご意見、ご質問はよろしいでしょうか。
(特になし)

無いようなので、議題を終了させていただき、進行を事務局にお返しします。

事務局：本日も用意させていただいた議題は以上となります。いろいろと貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。行政の方でも参考にさせていただきたいと思います。

6. 閉会